

Title	著訳者紹介
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.50, 2011.3 : 375-370
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3120
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

阿久戸 光晴 あくど・みつはる

1951年生まれ。一橋大学社会学部・法学部卒。住友化学工業株式会社勤務を経て、東京神学大学博士課程前期修了後、米国エモリー大学神学部大学院ほか。その傍ら聖学院大学及び聖学院アトランタ国際学校開設業務を担当。その後聖学院大学宗教主任兼助教授を経て、現在、聖学院大学学長兼教授。その他日本聖書協会新翻訳事業検討委員、荒川区不正防止委員会委員長など。

〔著書〕『近代デモクラシー思想の根源』、『説教集 新しき生』、『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』(共著)、『神を仰ぎ人に仕う』(共著)、『キリスト教学校の形成とチャレンジ』(共著)ほか、著書・論文多数。

森川 輝一 もりかわ・てるかず

1971年生まれ。2001年3月、京都大学法学研究科博士後期課程研究指導認定退学。名城大学法学部にて、2001年4月より講師、2003年4月より准教授を務め、今日に至る。

〔著書〕『〈始まり〉のアーレント——「出生」の思想の誕生』(岩波書店、2010年)。「ハンナ・アレント——政治という難問」、富沢克・古賀敬太編『二十世紀の政治思想家たち——新しい秩序像を求めて』(ミネルヴァ書房、2002年)。「公共性」、古賀敬太編『政治概念の歴史的展開』第一巻(晃洋書房、2004年)。

青柳 幸一 あおやぎ・こういち

1948年生まれ。慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学。横浜国立大学大学院国際経済法学研究科助教授、同・教授、同・国際社会科学研究所教授、筑波大学法科大学院教授等を経て、2011年4月より明治大学法科大学院教授。博士(法学)。

〔著書〕『憲法における人間の尊厳』(尚学社、2009年)、『人権・社会・国家』(尚学社、2002年)、『個人の尊重と人間の尊厳』(尚学社、1996年)、青柳編『融合する法律学』上・下巻(信山社、2006年)、青柳・戸松秀典編著『ベーシックラーニング@ロースクール憲法』2011年版(第一法規、2011年)ほか、著書・論文多数。

東方 敬信 とうぼう・よしのぶ

1944年兵庫県生まれ。青山学院大学経済学部卒。1970年東京神学大学修士課程修了。1996～97年デューク大学客員教員。日本基督教団銀座教会副牧師，経堂緑岡教会，富士見丘教会の牧師を経て青山学院大学宗教主任・総合文化政策学部教授。日本基督教学会理事。大学で学生と共にフェアトレードの活動を実践。長年，学生，教職員と共に聖書の真理と生き方を探求。

〔著書〕『H・リチャード・ニーバーの神学』、『キリスト教と生命倫理』、『物語の神学とキリスト教倫理』、『神の国と経済倫理』、『生きるための教育』その他。

〔訳書〕H・リチャード・ニーバー『近代文化の崩壊と唯一神信仰』，J・ガスタフソン『キリスト教倫理は可能か』，G・D・カウフマン『核時代の神学』，S・ハワーワス『平和を可能にする神の国』，『神の真理』その他。

金子 晴勇 かねこ・はるお

1932年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。現在，聖学院大学大学院客員教授。文学博士（京都大学）。

〔著書〕『ルターの人間学』，『アウグスティヌスの人間学』，『近代自由思想の源流』，『マックス・シェラーの人間学』，『ルターとドイツ神秘主義』，『近代人の宿命とキリスト教』，『エラスムスとルター』，『アウグスティヌスの恩恵論』，『ヨーロッパ人間学の歴史』，『愛に生きた証人たち』，『ルターの霊性思想』，『現代ヨーロッパの人間学』ほか。

〔訳書〕エラスムス『エンキリディオオン』，ルター『生と死の講話』，アウグスティヌス『ペラギウス派駁論集（1），（2），（3），（4）』，『ドナティスト駁論集』，『ヨハネによる福音書講解説教（2）』，ベルナル『雅歌の説教』ほか。

鶴沼 裕子 うぬま・ひろこ

1934年東京生まれ。東京大学大学院人文科学研究科倫理学専攻課程・博士課程単位取得満期退学（文学修士）。現在，聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化研究科特任教授。

〔著書〕『近代日本のキリスト教思想家たち』（日本基督教団出版局，1988年），『史料による日本キリスト教史』（聖学院大学出版会，1992年），『近代日本キリスト者の信仰と倫理』（聖学院大学出版会，2000年）。

アラン・M・サゲート Alan M. Suggate, Ph. D.

元ダラム大学教授。ケンブリッジ大学，ロンドン大学，ダラム大学で学ぶ。専門はキリスト教社会倫理学。ダラム大学にて19世紀及び20世紀の西洋社会倫理，ラテン・アメリカの解放の神学，そしてアジアの神学を主に講じる（1979–2001）。信仰を实践する英国国教会徒として神学研究をしている。ダラム博士論文（1981）において，ウィリアム・テンプル（カンタベリー大主教，1942–1944）のキリスト教社会倫理を論じ，テンプルの社会倫理を西ヨーロッパにおけるカトリック及びプロテスタントの伝統，そして北アメリカの同様の伝統（特にラインホルド・ニーバー）との関係において批判的に考察している。*William Temple and Christian Social Ethics Today* (1987). Co-Editor with Oswald Bayer, *Worship and Ethics: Lutherans and Anglicans in Dialogue* [Theologische Bibliothek Topelmann] (1996). *Japanese Christians and Society* (1996). 『W. テンプルと英国のキリスト教社会倫理思想』(2005) 他。

藤原 淳賀 ふじわら・あつよし

1965年生まれ(岡山市)。University of Durham (England), Ph.D., Golden Gate Baptist Theological Seminary (U.S.A.), M.Div., 慶應義塾大学大学院，教育学修士。東京基督教大学専任講師，聖学院大学総合研究所助教授，准教授を経て，2010年より教授。

〔著書・論文〕“Theology of Culture in A Japanese Context: A Believers’ Church Perspective,” “The Challenge of Yoder and Hauerwas’ Theology in the Japanese Context,” “H. Richard Niebuhr and John Howard Yoder: Theology of Culture,” 「キリスト教と戦争：歴史的概観と今日の課題」, As a Consultant Editor, 2006, *The New Lion Handbook: Christian Belief*, General Editor, Alister McGrath, Oxford: Lion Hudson Plc.

深井 智朗 ふかい・ともあき

1964年生まれ。アウクスブルク大学哲学・社会学部博士課程修了。Dr.Phil. (アウクスブルク大学)，博士(文学)京都大学。現在，聖学院大学総合研究所教授。

〔著書〕Paradox und Prolepsis, Marburg 1996, 1999 (2.Aufl.), 『アポロゲティークと終末論』(北樹出版), 『政治神学再考』(聖学院大学出版会), 『文化は宗教を必要とするか』(教文館), Harnack und seine Zeit, Marburg 2002, 『超越と認識』(創文社), 『十九世紀のドイツ・プロテスタンティズム——ヴィルヘルム帝政期における神学の社会的機能についての研究』(教文館)など。

森田 美千代 もりた・みちよ

1946年生まれ。国際基督教大学大学院修士課程教育研究科修了（教育学修士）。ドルー大学神学部 Master of Theological Studies 修了（神学修士）。ドルー大学大学院博士課程アメリカの宗教と文化専攻修了（Ph. D.）。現在、聖学院大学総合研究所教授。

〔著書〕 *Horace Bushnell on Women in Nineteenth-Century America* (University Press of America). 『ブッシュネル「キリスト教養育」の成立過程研究』（日本キリスト教団出版局）、『人間の生と教育』（創言社）ほか。

〔訳書〕 ホーレス・ブッシュネル『キリスト教養育』（教文館）、『理想の大学』（創言社）ほか。

〔論文〕 “Horace Bushnell on Women in Family, Church, and Nation in Nineteenth Century Christian America.” Ann Arbor: University Microfilms International, 1999. 「ホーレス・ブッシュネル研究——『キリスト教養育』をめぐって——」（教授資格論文）ほか。

津田 謙治 つだ・けんじ

1976年群馬県生まれ。2005年京都大学大学院文学研究科キリスト教学専修博士課程修了。文学博士（京都大学）。現在、聖学院大学欧米文化学科教育補佐、明治学院大学・静岡県立大学非常勤講師など。

〔訳書〕 J・N・D・ケリー『キリスト教教理史』上・下（一麦出版社、2010年）。

〔論文〕 「マルキオン思想の多元論的構造——プトレマイオス及びヌメニオスの思想との比較において」（博士論文、2008年）、「場（locus）と神の唯一性——反異端教父エイレナイオスの修辭学及び哲学的反駁」（『日本の神学』47、2008年）、「古代教父思想における『時間』概念——エイレナイオス『異端反駁』の議論を中心として」（『基督教学研究』28、2008年）ほか。

松尾 秀哉 まつお・ひでや

1965年生まれ。一橋大学社会学部卒。東邦ガス株式会社、株式会社東海メディカルプロダクツ勤務を経て、2007年3月東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。現在、聖学院大学政治経済学部准教授。専攻はベルギー政治史、比較政治学、キリスト教民主主義論。

〔著書〕『ベルギー分裂危機——その政治的起源』（明石書店、2010年）、『模索する政治——代表制民主主義と福祉国家のゆくえ』（ナカニシヤ出版、2011年）（共著）。

〔論文・翻訳〕「キリスト教民主主義政党的「調停の政治」メカニズム——ベルギーにおける初期福祉国家改革期のカトリック党の党内政治過程——」『国際関係論研究』（2000年10月）、キャロル・マーション（松尾秀哉訳）「政党派閥と連合政権——イタリア・キリスト教民主党における閣僚ポストの配分」『レヴァイアサン』第29号（2001年秋）、「コンセンサス・デモク

ラシーにおける『ワンマン』型リーダーの台頭」日本比較政治学会編『年報比較政治学 第10号 リーダーシップの比較政治学』, 早稲田大学出版 (2008年) など。

森分 大輔 もりわけ・だいすけ

1968年生まれ。成蹊大学大学院法学政治学研究科博士後期過程修了(政治学博士)。国際基督教大学COEリサーチ・フェローを経て、現在、聖学院大学政治経済学部政治経済学科特任講師。

〔著書〕『ハンナ・アレント研究——〈始まり〉と社会契約』(風行社, 2007年)。『平和と和解のグランドデザイン——東アジアにおける共生を求めて』(風行社, 2009年)(共著)。

〔論文〕「バーリアはどこにいる——ハンナ・アレントの社会概念」(『現代思想』vol.35-11, 2007年), 「政治と民意」(『現代思想』vol.36-1, 2008年) ほか。

林 熙 國 イム・ヒグック (임희국)

現在, (ソウル)長老会神学大学校教会史分野教授, 啓明大学校人文大学独語独文学科卒業(BA), 長老会神学大学校卒業(M.Div, Th.M), スイスBasel大学校卒業(Dr. theol), 「ブルムハルト(子)研究」で学位取得。最近十余年の間, グローバル時代ポストモダニズムの流れの中で, 「地域教会史(嶺南地域)」を研究し, 「微視史」(Microhistory)と「口述史」(Oralhistory)研究方法を開拓してきた。

〔著書〕“Jesus ist Sieger!” bei Christoph Friedrich Blumhardt (1996), 「学者・牧会者李源永研究」[선비목회자이원영연구] (2001), 「李源永牧師遺稿説教(編集)」[이원영목사유고설교(억음)] (2001), 「金スマン長老, 足萎えが十の教会を建てる」[김수만장로, 절면서 열 교회를 세우다] (2004), 「ドンシン教会のからし種運動50年」[동신교회겨자씨운동 50년] (2006), 「イエス, 希望, 世の希望, ソマン教会30年」[예수 소망 세상의 소망, 소망교회 30년] (2007), 「小さな石, 大きな響き, 林オク牧師の生涯と思想」[작은 돌 큰 울림, 소석 임옥목사의 생애와 사상] (2008), 「御旨を地に伝えるソソネ教会100年史」[하늘의 뜻, 땅에 심는 성내교회 100년사] (2009)。

高 萬 松 こう・まんそん

1953年生まれ。東京神学大学大学院博士前期課程修了。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了。博士(アメリカ・ヨーロッパ文化学)。聖学院大学総合研究所助教。

〔著書〕『포사이스의 신장론 (フォーサイスの神義論)』(基督教連合新聞社, ソウル, 2007年)。

〔訳書〕『바른기도와그영매 (正しい祈りとその実り)』(大韓基督教出版社, ソウル, 1999年,

P. T. Forsyth, *The Soul of Prayer*の韓国語翻訳)。『칭교도』(基督教連合新聞社, ソウル, 2010年, 大木英夫『ピューリタン』の韓国語翻訳)。

〔論文〕「P・T・フォーサイスにおける戦争倫理」(古屋安雄他編『歴史と神学——大木英夫教授喜寿記念献呈論文集 下巻』聖学院大学出版会, 2006年), 「P・T・フォーサイスとピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』2, 2008年), 「初期韓国教会とピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』4, 2010年)。

宮本 悟 みやもと・さとる

1970年生まれ。同志社大学法学部卒。ソウル大学政治学科修士課程修了〔政治学修士号〕。神戸大学法学研究科博士後期課程修了〔博士号(政治学)〕。日本国際問題研究所研究員を経て、現在、聖学院大学総合研究所准教授。専攻は政軍関係論、安全保障論、朝鮮半島研究。

〔共著・論文〕「一九七〇年代における朝鮮民主主義人民協和国の国連外交：安全保障政策や対米外交政策との関係」『聖学院大学総合研究所紀要』第46号(2010年1月) pp.153-173, 「韓国の電子商取引発展における軍事技術の民間移転事業：CALISの民間移転に関する金鐵煥の役割」『聖学院大学総合研究所紀要』第48号(2010年9月) pp.294-314, DPRK Troop Dispatches and Military Support in the Middle East: Change from Military Support to Arms Trade in the 1970s, *EAST ASIA*, Volume 27, Number 4, (November 2009) pp.345-359など。